

RSウイルスなどの ウイルス感染症について

熱・せき・鼻水などの症状を出す風邪のほとんどがウイルス感染症です。コロナが一躍有名になりましたが、ウイルスにはインフルエンザや麻疹はしかなどさまざまな種類があります。昨今の感染対策でウイルス感染症の発生数は大幅に減少しています。コロナ以外に今年大流行しているのがRSウイルス(respiratory syncytial virus)です。

RSウイルスに初めて感染すると高熱が3、4日続き、ひどいせきと多量の鼻水が数日間続いて1週間程度でようやく治まります。世界中で、ほぼ100%の子供が生後2歳までに少なくとも1回は感染していると言われています。新生児や乳児が感染すると細気管支炎・肺炎から呼吸不全に陥り、人工呼吸管理が必要になるほど重症化することがあり、小児科医にとっては手ごわい感染症のひとつです。

例年は秋から冬にかけて感染

が広がります。昨年は全く流行しませんでした。今年も春から夏にかけて季節外れの大流行が起き、9月下旬現在も流行中です。

抗体療法がありますが、高価なために特に重症化しやすい早産児や先天性の心臓・呼吸器疾患のある新生児に限って予防投薬が行われています。そのほかに特別な治療法はなく、対症療法が中心で、ワクチンはまだありません。

この冬はコロナのほかにも、RSやインフルエンザなど各種感染症の流行が危惧されるので、感染対策を徹底しましょう。また、ワクチンは自身の感染予防や重症化予防だけでなく周囲の人への感染拡大防止効果があります。可能な限りのワクチン接種をお願いします。